

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 27 日現在

機関番号：24505

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23593315

研究課題名(和文)医療格差是正へのアプローチ：アジア系外国人女性のリプロダクティブヘルスからの考察

研究課題名(英文) Approach to redress the inequalities in access to healthcare : Consideration from reproductive health of Asian foreign residents in Japan women

研究代表者

嶋澤 恭子 (SHIMAZAWA, KYOKO)

神戸市看護大学・看護学部・講師

研究者番号：90381920

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円、(間接経費) 1,110,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではアジア系在日外国人女性のリプロダクティブヘルスに焦点を当て、彼女らの受療行動の実践とその選択実践を決定づける要因を明らかにする。基礎的文献のデータベース構築と、彼女らの出身国および日本国内における在日外国人女性向けの政策や保健サービスの現状について自治体、関連団体等から情報を収集した。さらに、ネパールやタイからの在日外国人女性とその家族に聞き取り調査を行った。彼女らの受療行動には複合的な決定要因があり、その背景として社会文化的なリスクによる意思決定がされていることが示唆された。また、受療する場合の出身国か日本かの選択においては、多様な人的ネットワークの活用が重要な役割を果たしていた。

研究成果の概要(英文)：This study is focus on the reproductive health of Asian foreign women in Japan, reveals are the factors that dictate the selection and practice of health seeking behavior of women. Basic Literature to build a database, and conducted a hearing on the relevant organization and local governments for health services and policy in Japan and countries they come. Moreover, was conducted a survey interviewed Asian foreign women and their families in Japan from Thailand and Nepal.

There is a determining factor complex in the health seeking behavior of women, that is decision-making by sociocultural risk was suggested in the background. Further, the health seeking behavior, when choosing country they come, or Japan, diverse utilization of human networks played an important function.

研究分野：助産学 文化人類学

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達観語学

キーワード：リプロダクティブヘルス アジア女性 医療格差

1. 研究開始当初の背景

近年、日本における外国人女性、特にアジア各国から本邦への入国者数は増加しつつある。殊に女性の入国者数は、10～20歳代の低年齢層に集中しているのが特徴であり、その数は112万人を超える。外国人登録者数も、半数以上を女性が占めており、特に近年急増しているのが、ネパール、ベトナム等のアジア諸国からの女性である。ここ10年間でベトナム2.8倍、タイ1.7倍、ネパール4.8倍であり、その数は着実に伸長している（入国管理局統計2008）。

外国人女性、特に10～20歳代の低年齢層の女性が増える中、問題化しているのが、在日外国人女性のリプロダクティブヘルスである。彼女たちは、医療制度や文化・社会の異なる外国に居住しているに加え、ジェンダーによる脆弱性を備えているといっても過言ではない。日本に来て初めて妊娠し出産か中絶かの選択を迫られ、性感染症に罹患するなど、リプロダクティブヘルス/ライツを脅かされ、健康状態の悪化から医療を受ける必要に直面する。しかし、外国人であるがゆえに、医療サービスを受けられない人が多いことが指摘されている（李2003）。健康状態が悪化しても、医療サービスにアクセスできない女性たちが多数いることが予測される。更に事態を深刻にさせているのが、外国人が医療を受けることを阻害する様々な構造的障害である。

これまで、国境を超える女性たちのリプロダクションについては、東南アジア・南アジア出身の女性たちのリプロダクティブヘルス確保のための実践を行いながら、在日アジア系女性の受療行動に着目してきた。

その中で、言葉が分からない理由で診察を断られたり、自分の病状を理解できないまま、

検査や治療を受けたり、いわゆる医療機関のたらい回しにされるなど、様々な受療継続の困難から、本邦での治療を諦め、本国へ帰国している多くの女性たちと関わってきた。特に、産婦人科を受診する若い女性たちのほとんどが、初めて見る開脚式診察台、男性医師による内診に驚くと共に、自分の身体に起きる事柄に恐怖を感じ、泣いたり、足を閉じてしまったり、文化の違いや言語の困難さゆえ医療者から診療を拒否されることも少なくない。

外国人女性のリプロダクティブヘルスの脆弱性に警鐘をならす研究者は少なくない（原2008、安里2008他）。しかし、医療アクセスが得られない人々の存在に警鐘を鳴らしているものの、その研究は未だ手薄な状況にある。特に、1990年以降に来日し続けるアジア人の乳児死亡率や死産率は高率にあり（李2003）、彼女らの母子保健、医療、福祉の充実が課題とされている。

ゆえに、本研究は、アジア系女性のリプロダクティブヘルスに焦点を当て、在日外国人女性たちの受療行動の実践を明らかにすると共に、彼女らの選択実践を決定付ける要因について、明らかにするものである。近年若年女性入国者が急増しているネパール、タイを本国とする女性に焦点を当てることとする。特に当事者のニーズや個人に起因する要因のみならず、受療選択行動における国際保健の構造的要因に着目した上で、アジア系在日外国人女性へのよりの確なりプロダクティブヘルスサービス提供について考察する。

2. 研究の目的

本研究は、アジア系在日外国人女性のリプロダクティブヘルスに焦点を当て、女性たち

の受療行動の実践を明らかにすると共に、その選択実践を決定付ける要因を明らかにするものである。特に、本国の医療制度と滞在国日本の医療制度の隙間にいる外国人女性たちに着目し、滞在国日本での受療行動を選択しなかった女性たちに焦点を当てることにより、これまでの研究において顧みられなかったアジア系外国人女性のリプロダクティブヘルスの脆弱性を、国際保健の構造的要因から明らかにし、アジア系在日外国人女性へのよりの確なりプロダクティブヘルスサービス提供に向けて実践研究を行うことが本研究の目的である。

3. 研究の方法

(1). 近年若年女性入国者数の増加の著しいアジア系女性(ネパール、タイを中心として)の出身国における国外在住女性への保健政策、及び、本邦における在日外国人女性向けの政策・サービスの現状について把握する。

(2). 「都市」「地方」に居住する20~40代のアジア系女性の受療行動を、地方と都市との格差、配偶者の有無と配偶者の国籍による格差に着目し聞き取りによる質的調査を実施する。

上記方法を実施するために以下のスケジュールに基づいて研究を実施した。

平成23年度：関連文献サーベイとデータベースを構築、関連団体、行政へのヒヤリングを行った。

平成24、25年度：予備調査として中部・近畿において日本滞在のアジア系女性およびその家族への聞き取り調査を行った。その結果からタイ・ネパールを中心とした在日外国人女性の受療行動について聞き取りを行い、主に質的調査(聞き取り調査及び参与観察)に

より明らかにした。尚、本邦にて受療した女性たちのみならず、日本での治療を諦め本国へ帰国して治療した人々の受療行動にも重点を置いた。研究者は、ネパールおよびラオス・タイでの長期現地調査を経験しており、現地語でのインタビューも可能である。研究対象者が受療に際して問題を抱えている場合には医療職である研究者がその相談に応じた。また、併せて出身国でのリプロダクティブヘルスに関するデータ、海外渡航者向けの情報などを分析及び整理した。

これらの現地調査に加えて、研究対象者たちを取り巻く社会経済状況や、日本での彼女らの受療に関する現状や課題について関係者とともに意見交換を行い広い文脈で在日外国人女性のリプロダクティブヘルスの脆弱性を検証した。

4. 研究成果

(1). 本邦における在日外国人向けの政度・サービスは、自治体単位で行っているところもあるが、特にその多くが外国人集住地区を持つ自治体、NPOや支援団体が情報やサービスの提供を行っていた。外国人登録の女性割合の急増、国際結婚、家族付添いでの来日から、在日外国人女性の増加も影響し、20-30代の生殖年齢の女性増加が顕著であることが分かった。リプロダクティブヘルスに関連する層の女性が増えていることが、文献や自治体資料から明らかであった。いわゆるアジアのマイノリティー言語へのサービスには限界があることが分かった。言葉の壁、心の壁、政度の壁がアジア、女性、そして単身の場合、さらに保障されていない状況であることが分かった。リスクグループとしては、訪日、あるいは在日して間もない、言葉の問題があ

る、経済的問題がある、社会的孤立状態であるといった4つのリスク群がみられる。

以下の聞き取りも合わせて考察すると、実際は、これらの複合的なリスクによって受療行動や意思決定がなされているようだ。

(2). 名古屋、神戸、山形、大阪に住む在日アジア系外国人女性とその家族に聞き取り調査を行った。特に近年、入国者数の著しい増加の見られるネパールとタイから入国者を対象にした。飲食店従業員、留学生、またその家族として、そして日本人男性との国際結婚で来日したという対象者の背景は多様であった。データ分析については、日本で受療する/出身国で受療する選択の決定要因の傾向が明らかになったが、対象数を増やして改めて分析し、報告書を作成しているところである。また、彼女らの同国人同士の人的ネットワークの活用は、実に多様であり重要であることが明らかになりつつある。今後も、本研究を継続発展させて、女性達の受療行動選択ファクターが、どのような時にどのように働くか、「受療行動の選択決定要因」分析として、当事者ニーズを把握しながら、女性の本国と本邦の社会的文化的政策的構造の面から在日外国人女性のリプロダクティブヘルスの脆弱性を検証し、それを克服するための方策を検討していきたい。

成果としては、アジア系女性とその家族からの聞き取りデータを中心に関連文献や調査結果をまとめて、報告書を作成し、学会誌への投稿準備中である。

5. 主な発表論文等

[学会発表] (計 8件)

幅崎麻紀子「『男児選好』の行方：現代ネパールにおける子どもの性をめぐる選好性に

ついての一考察」国際ジェンダー学会2013年大会、2013年9月7日、和洋女子大学(市川) 招待

幅崎麻紀子「子どもの成長支援と『女性が働くこと』」平成25年度第11回思春期保健相談士学術研究大会、2013年6月2日、マツダ八重洲通ビル9階マツダホール(東京) 招待

嶋澤恭子、「ラオスの都市部A病院における女性の『産むこと』の諸相」2012年5月2日、第26回日本助産学会学術集会、札幌

Shimazawa, K.: Postpartum mood disorders of women in urban Laos, The ICM Asia Pacific Regional Conference 2012, 2012.7. Hanoi, Vietnam.

Shimazawa, K.: Postpartum women's health problem in Southern Laos, The International Council on Women's Health Issues (ICOWHI) 19th International Congress, 2012.11, Bangkok, Thailand.

幅崎麻紀子「生殖テクノロジーの流入とローカルな実践：ネパールを事例として」生殖テクノロジーとヘルスケアを考える研究会、2012年12月06日、東京

幅崎麻紀子「ネパールにおける『家族計画』を超えるローカルな実践」国際ジェンダー学会「開発とジェンダー」分科会、2012年12月15日、和光大学(東京)

幅崎麻紀子「ネパールにおける家族計画をめぐる『開発』とローカルな実践」日本南アジア学会第25回全国大会、2012年10月06日、東京外国語大学(東京)

[図書] (計 3件)

幅崎麻紀子「『リプロダクションの文化』としての家族計画：ネパールにおける生殖統制の条件」、小浜正子・松岡悦子編、『アジ

アの出産と家族計画 「産む・産まない・産めない」身体をめぐる政治』、勉誠出版、2014

HABAZAKI Makiko, Orient BlackSwan, 'Widowhood, Socio-Cultural Practices, and Collective Action.: A Study of Survival Strategies of Single Women in Nepal', in Rajni Palriwala and Ravinder Kaur (eds.) *Marrying in South Asia: Shifting Concepts, hanging Practices in a Globalising World*, 2013.

嶋澤恭子「第8章助産の歴史・文化 3 . 助産の文化的考察」青木康子編『新助産学シリーズ 助産学概論』 2013、195-202

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

嶋澤 恭子 (SHIMAZAWA Kyoko)
神戸市看護大学・看護学部・講師
研究者番号： 9 0 3 8 1 9 2 0

(2) 研究分担者

幅崎 麻紀子 (HABASAKI Makiko)
筑波大学・ダイバーシティ推進室・准教授
研究者番号： 0 0 4 0 1 4 3 0